

さいたま市立浦和博物館館報

## あかんさす

VOL. 40-2  
通号 第 103 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

## 中学生職場体験事業

## (未来くるワーク体験)を実施しました。

さいたま市では、全ての市立中学校と特別支援学校で、生徒が社会人・職業人として自立していくことができるよう「キャリア教育」を一層推進する視点から、職場体験事業「未来くるワーク体験」を行っています。

このたび浦和博物館では、1月の中旬から2月の初めにかけて、美園中学校、東浦和中学校、木崎中学校、本太中学校、三室中学校の5校、15人の生徒が、各校3日間の日程で、職場体験を行いました。

第1日目は、自己紹介の後オリエンテーションで、職員が今後の進め方や博物館業務の概要説明及び館内外の施設、展示の状況などを見て回りながら解説しました。オリエンテーション終了後は、展示パネルの作製

作業として、館内の展示物一つを選び、画用紙に展示物の絵と説明（キャプション）を加えた手作り展示パネルの作製に取り組みました。

午後2時過ぎからは、館内外の清掃、そして一日の反省会をして第1日目の職場体験を終了しました。

第2日目は、開館に向けた準備として看板、職<sup>のぼり</sup>、市旗等の設置及び館内の安全等の確認、パンフレットの整理補充などを行いました。

次に資料の取り扱いとして、掛け軸を展示する過程を体験してもらいました。

午後は、電話の対応や封筒の宛名書きなどの事務的な仕事をしました。

2時過ぎからは、館内外の清掃、そして一日の反省会をして2日目の職場体験を終了しました。



職場体験

## 目次

中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」を実施しました……………	1
特別展開連講座「日光御成道周辺地域のくらし」を開催しました……………	2
昔のあそび・昔のおもちゃづくり……………	4



第3日目は、開館に向けた準備の後、資料カードの作成や民俗資料（火鉢等）の梱包収納の仕方、土器の整理など、資料整理の仕事をしました。

午後は、第1日目に取り組んだ展示パネル及びキャプションの作成を完成させ、展示に併せて生徒に解説（ギャラリートーク）してもらいました。

2時過ぎからは、館内外の清掃、そして一日の反省並びに全体を通しての感想を述べてもらい3日間の職場体験が終了となりました。

生徒の皆さんは、最初はやや緊張気味でしたが、2日目以降は徐々に博物館の雰囲気にも慣れ、仕事に対して意欲をもって取り組んでいました。

期間中には、雪にも遭遇し職員総出での雪かき作業を中学生も一緒になって取り組んでくれました。

館内の蛍光灯が切れているのを見つけ、館員とともに速やかに対応するなど、施設面の状況も即座に把握し、体験中は常に館の職員であるとの自覚をもって行動することができました。

また、生徒の皆さんが来館の方々に対して元気よくあいさつする様子は、とてもさわやかに感じられました。

3日間の職場体験ではありましたが、生徒の皆さんには博物館での仕事を通して、勤労観、職業観を体感することができたのではないのでしょうか。

皆さんおつかれさまでした。

## 特別展関連講座

# 「日光御成道周辺地域のくらし」を開催しました

特別展「日光御成道」開催期間中の平成23年11月23日（水・祝）、浦和区の浦和コミュニティセンターにて、講座「日光御成道周辺地域のくらし」を開催し、100名を超える市民の皆様のご参加をいただきました。

講師は、法政大学教授の根崎光男先生にお願いしました。先生は、長年にわたり鷹場制度など江戸時代の村落支配構造の研究に取り組まれており、『江戸幕府放鷹制度の研究』などの著作があります。近年は解説者としてテレビ番組にも出演されるなど、多方面で活躍されています。



講座のようす

講座では、はじめに日光御成道についての簡単な紹介のあと、日光御成道の周辺の地域に暮らした人々の生活について、御成道や宿場との関わり、御鷹場との関わり、野田のさぎ山との関わりなどの三つの視点からご講演をいただきました。要旨については以下のとおりです。

### ● 日光御成道と周辺の村々

社参の行列が日光御成道を通る際の、宿場や周辺の村々の負担は非常に大きいものでした。代々の将軍は、将軍就任前や引退後のものまで含めると、日光への社参を合計19回行っています。例えば第10代将軍家継が行った社参の際には、その行列の荷物を運ぶのに、沿道の宿場や村々から人足を約23万人、馬を約30万疋駆り出しています。



社参のほかにも、幕府や諸藩などの公用の通行がある際に、荷物を運ぶための人や馬を負担するのが、江戸時代の宿場の務めでした。日光御成道でも、老中や日光門主、幕府の代官などの通行や、岩槻藩、仙台藩の参勤交代などの公用通行があり、社参のないときでも、一年間で人足1200人、馬100足くらいを公用通行のために提供していました。

人や馬は宿場に常備することになっていましたが、不足した場合は近隣の村々が提供することになっていました。負担を行う村を「助郷」と呼び、大門宿では近隣の15ヶ村が、普段から村人馬の提供を行う「定助郷」とされていました。定助郷だけでは負担しきれない場合、さらに「代助郷」「加助郷」「増助郷」と、さらに広い範囲の村々が人馬を提供するよう定められていました。

こうした人馬の提供は、現在でいう税金の一部にあたります。現在はお金で納めていますが、江戸時代には、労役など様々な負担がありました。

江戸近郊の村々には、江戸城に近いと、江戸城で必要な品々を納入することが命ぜられることが多くありました。「江戸城御用物」「上げ物」などと呼ばれ、各地域の産物に応じて様々な負担を課せられていました。御成道やその周辺の地域でも、蚊をいぶすための生の杉の葉、江戸城で飼育する鳥や魚の餌とするための昆虫類や草の実、大奥で楽しむための蛸や鈴虫など、様々な品物を納めています。

### ● 鷹狩りと周辺の村々

鷹狩りは、わが国では古墳時代ごろから行われています。誰でも行ってよいものではなく、各時代の権力者が特権として行ってきた歴史があります。現在でも、全国で70人くらいの鷹匠が、技術を継承しています。

捕らえる獲物は、使う鷹の種類によって違いますが、いちばん貴重なものとされていたのは鶴、そして白鳥でした。江戸時代には江戸にも鶴が住んでおり、江戸の空を鶴が舞うのは吉兆であるとして、当時の日記などにも記録されています。

捕らえた鳥は食用になるのが普通で、将軍が自ら捕らえた「御拳の鶴」などは朝廷にも献上されました。

将軍が鷹狩りを行う場所は、江戸時代初めには

明確に決まっていませんでしたが、三代将軍家光<sup>いえみつ</sup>のころ、江戸城周辺5里四方くらいの範囲を将軍家専用の御鷹場と決めました。この範囲は、将軍の手から鷹を飛ばす場所として「御拳場」と呼ばれました。

御拳場の外側には、徳川御三家の鷹場として鷹狩りを認める範囲が設けられました。さいたま市域は、南の端の一部が御拳場、大部分は紀伊徳川家の御鷹場となっていました。

御三家の鷹場のさらに外側は、幕府召抱えの鷹匠の訓練の場として定められ、「捉飼場」と呼ばれました。捉飼場では、幕府の御鷹部屋に勤める鷹匠が、将軍家の鷹の訓練を行うほか、実際に狩りを行い、江戸城で食べられる鳥の肉をまかいました。その数、年間に7,000羽ほどの量といわれています。

将軍家や紀伊家の鷹場といっても、領地として支配するのではなく、鷹狩りを行うことができる範囲として定められたものですが、獲物となる野鳥の保護のために様々な規制がありました。「鷹場法度」には、鷹場領主の代官である鳥見役の指図に従って、いつ鷹狩りが行われても良いよう、道路などの維持管理を行うことや、密猟者の監視を行うこと、不審な人物は取り締まること、建物の工事は許可を得て行うこと、野鳥を追い払わないこと、巢から落ちた雛鳥は保護することなど、幅広い分野の規制が記されています。



御拳場六筋と鳥見役宅



## ●野田のさぎ山と周辺の村々

見沼溜井が干拓されて水田になり、餌がとりやすくなったため、見沼新田にはサギが集まるようになりました。このサギが、新染谷村の名主の屋敷の藪に住み着いたのが、さぎ山のはじまりといわれています。

最盛期には、数万羽のサギが住みついたといわれ、紀伊家鷹場の中であったことから紀伊藩はその保護を命じました。そのためサギのフンで藪は真っ白になり、屋敷の屋根も踏み抜かれるようなありさまでしたが、追い払うこともできず、その上に密猟者の取り締まり、落ち雛の保護などの負担も課されました。

紀伊藩からは、藩が保護を行っていることを示す「きいどのかこいさぎ紀伊殿 囲鷺」と記した杭を下げ渡され、また日光御成道を将軍が通行する際にはさぎ山を御上覧され「御賞美」されるなど、明治以降も地域にとっての名誉でもありました。さぎ山は、フンで木が枯れるなど環境が悪くなるたびに場所を移しながら、昭和40年代まで続きました。

90分間の大へん専門的な内容の講座でしたが、鷹狩りなどのテーマでテレビ出演された際のエピソードなどを交えながら、楽しく、わかりやすくお話しいただきました。また、ご参加の皆様のアンケートでも、大へん好評をいただくことができました。改めてご講演いただいた根崎先生並びにご清聴いただいた皆様に感謝申し上げます。

## 昔のあそび・昔のおもちゃづくり

「ちょっと昔のくらしの道具展」開催期間中の1/7(土)・8(日)・9(月)に昔のあそび体験コーナーを設け、竹馬、ベーゴマ、竹とんぼなど、昔懐かしい遊び、そして9日は、併せて昔のおもちゃづくり講座として、辰年にちなんだ、手作りで簡単にできる凧作りに取り組みました。連日多くの児童が保護者の方とともに来館し、楽しい一時を過ごしていただきました。特に凧は簡単に作ることができ、よく上がる優れものです。子どもたちは博物館の庭で元気に走り回って、いつまでも凧揚げを楽しんでいました。



おもちゃづくり

## 日誌抄

日誌抄

H23. 12/20(火)~H24. 4/15(日)

「ちょっと昔のくらしの道具展」

H24. 1/7(土)~9(月)

昔のあそび・昔のおもちゃづくり

- 1/15(日) 定例探鳥会
- 1/18(水)~20(金) 中学生職場体験  
(美園中学校)
- 1/24(火)~26(木) 中学生職場体験  
(東浦和中学校)
- 1/25(水)~27(金) 中学生職場体験  
(木崎中学校)

2/1(水)~3(金) 中学生職場体験

(本太中学校・三室中学校)

2/1(水)~29(水) 昔の道具さがし

2/19(日) 定例探鳥会

3/18(日) 定例探鳥会

3/23(金)~25(日) 昔のあそび

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさす** No.103  
編集・発行 さいたま市立浦和博物館  
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地  
TEL・FAX 048-874-3960  
発行日 平成24年3月28日  
ホームページ  
<http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html>  
E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)

この館報は2000部作成し、1部当たりの印刷経費は25円です。

